

こぶしの花

Kobushi no Hana

青森中央学院大学
青森中央短期大学
青森中央経理専門学校
青森中央文化専門学校
青森中央短期大学附属第一幼稚園
青森中央短期大学附属第二幼稚園
青森中央短期大学附属第三幼稚園
中央文化保育園
浦町保育園



正門キャンパスイルミネーション
撮影：青森中央短期大学1年 高谷 いずみ

青森中央学院大学サテライトキャンパスFRIENDLY WINDOW開設


vol.83

目次

特集：
青森中央学院大学
サテライトキャンパス
FRIENDLY WINDOW開設

2

学園共通

4

- ・ボランティアたけなわ
- ・学内企業セミナー

青森中央学院大学

6

- ・キャリアプログラム e-コマース
- ・キャリアプログラム トライアウト
- ・平成23年度前学期学位記授与式
- ・企業ドメイン研究会
- ・公開講座
- ・青森中央学院大学同窓会
- ・国際交流センターより
- ・サークル・ライブ
- ・ゼミ探訪
- ・私の1冊
- ・OB通信
- ・学生記者発

青森中央短期大学

10

- ・卒業へ向けて
- ・幼児保育学科卒業記念公演
- ・国際協力機構研修員の受け入れ
- ・第1期生の会
- ・東日本大震災と保育士
- ・先生の自分史
- ・研究室を訪ねて
- ・読んで欲しいこの1冊
- ・卒業生も活躍しています
- ・学生記者発

附属第一・第二・第三幼稚園
浦町保育園 中央文化保育園

14

- ・世界一大きな絵 2012
- ・キャンパスイルミネーション点灯式
- ・先生達活躍しています
- ・読み聞かせたい一冊の絵本
- ・卒園児頑張っています

青森中央文化専門学校
青森中央経理専門学校

16

- ・Bunka Fashion Live 2011
- ・学生パソコン教室
- ・～ワードで年賀状作成～
- ・青森中央文化専門学校研修旅行
- ・青森県海外技術研修員
- ・経理発信情報
- ・ファッション通信
- ・おススメ図書
- ・卒業生ピックアップ

インフォメーション

18

特集

青森中央学院大学サテライトキャンパス
FRIENDLY WINDOW開設

サテライトキャンパス運営委員長 内山 清

秋が深まり始めた10月1日、青森中央学院大学サテライトキャンパス FRIENDLY WINDOWが青森市の新町通りに開設されました。学外における学生参加型の情報発信基地です。ここでは、学校関連の各種の情報発信からサークル活動、公開講座、留学生による母国文化紹介、ゼミ活動など様々な催し物が行われています。1階フロアは明るい喫茶店風のスペースで、時折留学生による母国料理も食べられます。2階は落ち着いた会議スペースで、催し物がない時には留学生の母国文化紹介をビジュアルに行っています。

このFRIENDLY WINDOWは青森県企画政策部企画調整課とのタイアップ事業である「学生発未来への挑戦状」が契機となって検討がスタートしました。外国人観光客への青森情報の提供や相談サービス、日本人の海外旅行者への母国情報の提供などが発想の原点となり、学園と地域社会との交流促進の場として機能させていく多目的交流施設の姿として形成されました。学園と共に地域の人々にも有効に活用して頂く交流の場やアクセス窓口として、今後さらにパワーアップしていく予定です。

市民が気軽に立ち寄れる場として、外国人旅行者が親切な相談をできる場として、学生活動のひとつの拠点として、FRIENDLY WINDOWは学園活動を支え、地域社会との交流を深めていく貴重なチャンネルでもあります。行きつけの喫茶店の感覚でご利用ください。

皆様方の積極的な利用企画プランをお待ちしています。

FRIENDLY WINDOW
ミッションの構想



外観

背景

地域課題の多様化
と教育機関の使命

著しい少子高齢化の進展、若者の労働・学習意欲の低下、地域の衰退、観光資源の未開拓、国際交流の課題の顕在化など

初期の構想

留学生の視点

食文化、語学、民族衣装、情報発信、日本人と外国人、青森県と世界

時代の要請

教育機関の使命の達成

+実践的教育、途上国の商品の販売、貧困削減への貢献、大学と地域、地域活性化のハブ

サテライト
キャンパスの
ミッション

フレンドリー青森の共創
地域活性化

平成21年度
青森県基本計画
「学生発未来への挑戦」
留学生チームのプロジェクト

FRIENDLY WINDOWが発足し4ヶ月になりますが、メディアでも取り上げられ、徐々に軌道に乗りつつあります。

今回は、活動に参加した留学生4名に感想を聞いてみました。

謝左月（経営法学部3年 中国出身）

FRIENDLY WINDOWでは、料理や飲み物の調理・提供を行いました。様々な経験を積むことが出来て楽しかったです。

この施設を通して自国の文化をもっと広めたいと思っていますので、機会があったらまた絶対携わりたと思っています。

チェン・ダオ・クウイ・ズウン（大学院2年 ベトナム出身）

地域の方々と生活や文化についてお互いに話を交わし、それによって自国に興味を持ってくれたのが嬉しかったです。運営して行く上で、人手が足りない・働く学生達の調整が難しかった等の課題もありましたが、学生みんなが協力し合うこと・お客さんに笑顔をもたらえることが嬉しく、やりがいがありました。まだまだ改善が必要な部分もありますが、今後は留学生・日本人学生・地域の方々の知り合える場・交流や集いの場として活用されて欲しいと思っています。また、2階では学生たちがそれぞれ一生懸命選んできた自国の民芸品の紹介・販売が行われています。こういった活動を通して、もっと自国を知って欲しいし、つながっていければいいと思っています。

ピポプチャイヤシット・マーウィパー（大学院1年 タイ王国出身）

FRIENDLY WINDOWでは、自国の料理を作って提供したり、自国の文化をお客さんに紹介したりしました。売る為に料理を作ることは初めての経験だったため、盛り付けや見栄えを意識したり大変でしたが、楽しかったです。

また、色々な文化を紹介することも良い経験になりました。何よりも、自分の国を知ってもらえる、というのが嬉しかったです。

チンダークン・スキット（経営法学部2年 タイ王国出身）

今までアルバイトなどで働いた経験が無かったため、初めて働いた職場となりました。普段あまり料理をしないのですが、提供した料理をお客さんに「おいしい」と言ってもらったのも初めてで、とても印象深く嬉しかったです。また、自国の紹介を日本語で行うため、日本語の勉強にもなりました。

この他、タイ語会話教室で講師を務めたとき、参加した受講者と友達になり、今でもメールのやり取りをしています。こういう交流ができたのもプラスになったと感じています。





ボランティアたけなわ

- ▶ 5月15日、東日本大震災被災地の岩手県野田村にて震災復興ボランティア。
- ▶ 5月17日、修学旅行で青森を訪れた大仙市立中川小学校の生徒達に、青森市内案内ボランティア。
- ▶ 8月8日～9月2日、十和田・奥入瀬サマーキッズキャンパス2011において、福島原発の影響により野外活動を控えさせられている中小生へ遊びと学びのボランティア。
- ▶ 8月8日～9月2日、青森県立中央病院患者介助等のボランティア。
- ▶ 9月14日・15日、石巻市で開催された、青森中央短期大学復興支援コンサート実行委員会主催・復興支援コンサートで、石巻市内高校吹奏楽部との共演と支援コンサートスタッフのボランティア。また、コンサートに合わせて行った、石巻地区吹奏楽部募金支援活動では、621,560円の浄財を頂き、宮城県吹奏楽部連盟石巻支社へ送った。
- ▶ 9月23日～25日ボランティア開催の「十和田湖ecoシーン2011」でのイベント補助ボランティア。
- ▶ 9月24日、東日本大震災被災地の岩手県山田町を元気付けるため、青森じゃわめぎ隊が企画したねぶた運行に跳人として参加。
- ▶ 11月21日～28日、タイ洪水被害への募金活動を学内で行った他、23日には市内ショッピングセンターで街頭募金活動も行った。集まった浄財191,356円は在京タイ国大使館を通じてタイへ送られた。



学内企業セミナー

キャリア支援センター長 平出 道雄

学内企業説明会も11回になるが、経済環境が極めて厳しい中、過去最高の57企業が参加した。今回は、国の機関である青森労働局、青森海上保安部、青森県庁の人事部である人事委員会、青森県や神奈川県警等の役所が目立ったほか、民間企業でも地元2大地方銀行、わが国証券業界トップの野村證券をはじめ県内有力企業多数の参加をいただいた。

一方、各企業ブースには途切れることなく学生が押し寄せ、学生たちの真剣さ、意気込みも伝わってきた。企業の方々も学生の熱気を感じ説明に力が入ったし、採用したい学生が何人もいたと語っていた。これまでになく熱気で包まれ盛会であった。

青森中央学院大学

11回目となる学内企業セミナーは、過去最高の企業参加のもと開催された。本学学生の真摯な姿勢は毎年関係者より高い評価を得ているが、今年もどのブースもほぼ途切れることなく学生が訪れ、熱心に説明に耳を傾けていた。特に終了時間いっぱいまでブース周りを継続する学生が多数見受けられたのが今年の特徴であるが、今後の就職活動でもこの熱意を保ち続けるとともに、さらなる自己アピールを心がけるよう期待している。(キャリア支援委員長 鈴木克成)



青森中央短期大学

短大からは食物栄養学科の1年生全員を含め、総勢70名が参加した。一人あたりの平均訪問企業は5.5社であり、昨年度の4.9社と同等以上の積極的な参加であった。終了時刻になっても説明を聞き続ける学生が例年より確実に増えたのが印象的であった。訪問者数上位の給食委託企業と並び、千葉県に本社のある保育園・幼稚園運営企業が保育士だけでなく栄養士の需要を訴え、食物栄養学科も22名の学生が説明を聞いた。昨年度と同様、首都圏をも含めた早期からの積極的な就職活動を期待したい。

(キャリア支援委員長 宮田篤)



専門学校

リクルースタイルに身を包んだ専門学校生が12月6日体育館に集合した。

今年は、就職活動解禁が去年より2ヶ月遅い12月1日だった。その直後の為、学生たちの関心も高く、自主的に企業ブースを訪問していた。学生たちはネットだけでなく説明会等へ足を運ぶことの重要性や企業内容について真剣にメモをとっていた。担当者からは、震災の影響も有るのか、例年以上に意気込み、真剣さが伝わってくるとの感想を頂いた。

(キャリア支援担当 鈴木伸吾)



青森中央学院大学

キャリアプログラム e-コマース

キャリアプランニングの2年生前期のプログラムで、自分たちのイチオシ青森県産品を探し、実際に企業と交渉して販売許可を得るといった内容である。授業の狙いは青森県に関心を持ち、行動力とコミュニケーション力を身につけることである。

今年度は初めての試みとして、11月3日～6日にアスパムで開催された、コミュニティビジネス見本市に出展した。学生達は、出展の申し込みと同時にマスコミ向けに投げ込みを行った。また、初めての出展ということで、テレビ、新聞やFM放送などに上げられた。

このプログラムはカメラシエンタープライズや多くの協力企業、青森県総合販売戦略課、プラットフォームあおもり、コラボ産学官青森支部の温かい支援によって初めて成立するものである。同時に青森県にある本学でしかできないのではと自負している。産官学金連携の一つの成功事例として、今後も継続して行きたいと考えている。

(キャリア支援担当 塩谷未知 教授)

平成23年度前学期学位記授与式

9月7日、平成23年度前学期学位記授与式が執り行われ、学部卒業生16名（マレーシアからの留学生3名、中国からの留学生12名、日本人1名）、大学院修了生1名（タイからの留学生1名）に学位記が授与された。

アットホームな雰囲気の中にも厳粛に式は進み、石田学長代行による式辞の後、在校生代表 趙旖旎（チョウ イニ）さんから新しい門出を励ます言葉が、また、卒業生代表 CHAI WAI SENG さんからは感謝の言葉が述べられた。記念撮影後、場所を移して開かれた祝賀会では、在校生、卒業生の父兄も交え、和やかなムードで歓談が繰り広げられた。また、卒業生一人一人から、在学中の思い出や今後の抱負が述べられた。



キャリアプログラム トライアウト

学生がそれぞれ希望する地元企業に対して訪問調査を実施し、議論を重ね、研究成果を社会に向けて発表するキャリア教育プログラムである。趣旨は「特定企業への継続的なコミットメントを通じて、ビジネスパーソンとしてのセンスを高めてほしい」で、今年度は8名が挑戦した。流行分析や具体的な数値処理、プランの策定など、このプログラムの中で課されるタスクは決して軽くない。また、担当者から厳しい叱責を受けることもある。その中で、一人一人の学生の顔つきがみるみる変わっていく。

例年、12月中旬の発表会には学外の企業人が足を運ぶ。学生によるプレゼンテーションに対して、温かくもシビアなコメントが浴びせられる。悔しさに涙する発表者もいる。聴衆も思わず息を呑む。真剣勝負そのものだ。青森の地域資源の魅力をいかに引き出すか。2011年度のテーマは、地元企業の「成長キーワード」の発見だ。

(キャリア支援担当 椎名智彦 専任講師)

企業ドメイン研究会

産学連携講座として、青森県中小企業家同友会と「企業ドメイン研究会」を5月から始めた。同友会の呼びかけに応募してきた青森県の数社と、毎月一度集まり会を開いている。研究会では参加企業から自分たちの歴史や事業について報告をしてもらい、それを基に企業ドメインについて議論と現地調査を行っている。毎月の研究会では多くの気づきや発見があり、良い刺激になっている。また、研究会の議論の記録をゼミ生に頼んでいるが、普段なかなか触れることのできない経営の実際に接することができる。良い実践的学習の場にもなっている。

企業ドメインは「企業活動の範囲や領域」を考えることであり、「自分たちは何屋さんか」を考えることである。長野県の駒ヶ根市で15年間にわたって（今後も継続）行っている「企業ドメイン研究会」がベースになっている。

今後この活動を継続し、長野県の企業との交流ができたかと考えている。

(研究会担当 塩谷未知 教授)

公開講座

10月29日、語り部として活躍されている平野啓子氏（大阪芸術大学教授、元NHKニュースキャスター）を講師に招き、『平野啓子「語り」と「朗読」～太宰治と宮沢賢治～』と題して特別公開講座を開催した。

太宰治からは『走れメロス』、宮沢賢治からは『注文の多い料理店』などが語りの対象となった。身振り手振りも交えた表現豊かな語り、約300人の参加者が酔いしれた。聴衆からは、「絵本や紙芝居のよみきかせやドラマと違い、とても迫力があり驚いた」や「間のとり方がうまく、さすがだと思った」、「引き込まれてしまった」などといった感嘆の声が寄せられた。



青森中央学院大学同窓会

去る11月19日、青森国際ホテルにて青森中央学院大学同窓会の総会ならびに懇親会が開催された。総会では、平成22年度事業報告や役員改選などが承認された。平成23年度事業については、サークル活動支援助成金の授与が承認された他、大学と共催でのシンポジウム開催に向けて準備を進めていくことが承認された。また、青森市中心市街地の新町地区に地域住民との交流拠点および情報発信の場として開設したサテライトキャンパスFRIENDLY WINDOWの紹介が行われた。

懇親会では、卒業生、教員らが懐かしい顔ぶれに近況を報告し合う姿や、年代の違う卒業生同士が交流する様子が見られた。また、たまたま仙台で被災した卒業生から、震災直後の避難所で触れた人々の温かさや優しさが語られ、思いやりと助け合う心の大切さを再認識させられる場面もあった。来年度の同窓会もまた多くの同窓生が集うことを皆で願いつつ、閉会した。

国際交流センターより

タイ・チェンマイの高校視察団受入

10月10～14日まで、本学との交流、修学旅行やグリーン・ツーリズム体験旅行での来青を図る目的で、チェンマイの高校7校の代表者を招待した。一行には、県内各地の観光、達者村ホームステイ連絡協議会（南部町）所属の農家民泊などを通じて、青森の自然・名所・安全安心をPRした。



青森市内の高等学校との連携

10月4日、青森南高等学校外国語科2年生がアメリカで披露する「英語による日本文化紹介」の発表会に参加し、マレーシア・ベトナム・タイの留学生が、発表に対するアドバイスと交流を行った。

また11月10日には青森西高等学校人文科においてアジアに目を向け、異文化理解をする目的で開催された「国際理解セミナー」にマレーシア・



ベトナム・タイ・中国の留学生を派遣し、母国料理を生徒と一緒に調理した。

母国語ブログ完成！

青森県観光国際戦略局国際経済課と県内3大学の連携事業である「留学生人材活用推進事業」において、県産品や観光地の魅力や安心安全を留学生の母国に伝えるため、留学生が母国語で情報発信をするブログを開設した。本学留学生13名が定期的に記事を投稿しており、ぜひご覧いただきたい。

ブログアドレス：<http://appletrees.jp>

サークル・ライフ Vol.3

アンサンブルサークル

昨年8名で創設されたサークルだが、メンバーの積極的な活動もあって現在は部員22名となった。



今年度は、復興支援チャリティーコンサート、市内3大学の学園祭での演奏、10月には被災した宮城県石巻市で、プロピアニストと地元の石巻西高校吹奏楽部と合同で復興支援コンサート、そして12月には青森保健大学とのクリスマスコンサートを開くなど、その活動は活発である。石巻市で開かれたコンサートでは、入場無料にも関わらず、会場に設置された募金箱や復興支援口座に多額の義援金が寄せられた。

その他新入生歓迎パーティー、第59回吹奏楽コンクール全国大会へスタッフとして賛助など演奏以外の活動も盛んに行われている。これからの活躍に期待したい。(学生記者 太田諭志)

私の1冊

鈴木 克成先生 『純粹理性批判』

イマヌエル・カント著 中山元訳 (光文社,2010～)

どうせ読まないのでは、と思った。背伸びしてでも難解な書物に挑みたいという知的探求心は、現代の大学生にどれだけ残っているのだろう。推薦する本は幾らでもある。だが、どうせなら、なるべく手に取ってもらえるものがあるだろう。しかし、変化球も含め散々迷った末に決めたのは、大抵の人が数頁で投げ出すであろう直球ド真ん中のこれだ。『純粹理性批判』は哲学科の初学者がまず取り組む古典中の古典であり、わたしたちが生きる「近代社会」を理解する上でも避けては通れない書物だ。取っつきやすくはない。序論だけでたっぷり50頁もある(笑)。幸い、読みやすい新訳が刊行中で、記者による詳細な解説も参考になる。『～の言葉』等の摘み食いではなく、原典と格闘し、そのためにまた勉強する。終えた時には、世界はきっと違って見えるはずだ。諸君らに知的好奇心が生きていることを信じてみよう、と思った。

ゼミ探訪

～椎名智彦研究室～

椎名ゼミでは、刑事訴訟法の研究をしています。裁判員制度の運用が始まり、刑事裁判も国民の間に少しずつ浸透しつつありますが、まだまだ身近なものとはいえません。このゼミでは、犯罪の捜査の過程で生じる人権侵害やその救済方法、公判で生じる証拠の問題などを取り上げ、毎回報告者を決め、皆で議論します。例えば、最近の冤罪事件で有名な足利事件でみられた過酷な取調べなどを、どうすれば防ぐことができるか、また、実際にそれが起こった場合、訴訟上どのように処理すべきか、といった点を検討しています。学びの場は、研究室のみに限りません。裁判官や検察官、弁護士といった実務家の講演に足を運び、大学では知ることのできない司法の実情などについても造詣を深めています。また、夏休みには学外の施設で合宿を行い、スポーツやバーベキューなどを通じて親睦を深めています。(経営法学部3年 北山由佳)

OB 通信



拝啓 青森中央学院大学様

私は2007年に青森中央学院大学の地域マネジメント研究科を修了した後、東北大学経済経営研究科に進学し、2010年3月に博士課程を修了しました。さらに、メルボルン大学で大学生の教え方の研修コースを受けた後、出身地タイの大学及び株式会社ブリヂストンに採用されました。ブリヂストンでは、Corporate Planning Assistant Managerとして、競争力を高めるためにタイ支店の経営戦略を設定し、実施しています。そして週末は、日本の会社で効率的に働くという目的をもっているタイの学生達に対し、日本的経営学という授業を通じて、日本留学の経験や日本の会社の仕事について教えています。

今は何より、青森中央学院大学と東北大学で勉強したことを用いて、日本・タイの架け橋のように活躍できるのが嬉しいです。後輩の皆様も是非将来に向かって夢を実現してください。 敬具

大学院2期生 カホーンガムンカンチャーンさん

突撃!

教えて!先生

その2

丸山愛博先生に聞く

大学生生活で努力したことを教えてください。

英語の長文を読むのが好きで、授業とは別に読書会をしていた。4年生の時は、周りの友達には就職が決まっておき、このままではまずいと思ったため、大学院入試に向けた勉強を必死にした。

学生時代で1番印象に残っていることを教えてください。

書ける範囲では、行政法の試験で全く問題が解けなかったこと。本当に全く分からなく、めちゃくちゃ焦った記憶がある。勉強していたのだが、他の人も解けなかったらしく、勉強したことを書いて何とか許してもらった。

書けないことは、ゼミの懇談会で。

趣味を教えてください。

スカッシュ、バドミントン、釣り、スキー、車、バイクなど多趣味。

幼いころの将来の夢を教えてください。

幼い頃…、仮面ライダー。仮面ライダーの自転車がお気に入りだった。小学生の頃は弁護士。ちょっとした勘違いが原因だが、政治経済

が得意だったので弁護士になろうと思っていた。政治経済と弁護士がどうして繋がったのかは今でも分からない。

民法の勉強方法を教えてください。

とにかく全体像を頭に入れる。わからないことにこだわらずとばしても良い。これから先勉強していけばわかるようになることもある。

学院大学の学生の好きなおところ・直してほしいところを教えてください。

好きなおところは素直なおところ。直してほしいところは遅刻。

学生に何か一言お願いします。

言いたいことはたくさんあるが、小言ばかりになるので。エールを送るとすれば、「今の時間を将来の為に投資して下さい」ですかね。

(学生記者 木村翔太・柳谷優衣)



～若者歩き～

Vol.2

今回紹介するのは青森市中央にあるラーメン屋「ろぜお」である。平子、片口、鯨の煮干しと鯨節、丸鶏からだしを抽出している「中華そば」は、鶏の旨みが先に、煮干しの風味が後に感じられる奥深い味だ。また、豚の旨味を凝縮したト豚骨!!の「こってり中華そば」は、美肌効果のあるコラーゲンが大量。こってりの辛いラーメン「赤そば」は辛いのに甘い、旨辛い辛さがくせになる。平日の夜の部では、ラーメンを注文するとライスが無料、更にお替り自由と学生には嬉しいサービス付きである。イタリア語で「ピンク」という意味である「ろぜお」の店内は、その名の通り淡いピンクが基調になっていて、女性がひとりでも入りやすい雰囲気だ。駐車場がお店のすぐ横にあるので車でも安心して行ける。ぜひ足を運んでみてほしい。

(学生記者 柳谷優衣)

住所：青森市中央1-2-2

TEL：017-734-4310

営業時間：

昼 11:00～14:30

夜 17:00～20:30

土日祝 11:00～20:00

定休日：月曜日



こってり中華そば

♪トレンドキャッチャー♪

Lv.2

3.11の震災以降、節電の意識が高まり、今や節電トレンドが日本中を席卷している感がある。そこで今回は冬に向けて、節電トレンドを反映した誰でも簡単にできる節電方法を紹介する。

1.湯たんぼの使用 お湯を入れるだけですぐ使用でき、長時間の保温効果がある。また中に入れた水も再利用できるのでとてもエコである。湯たんぼが無い人でも2ℓのペットボトルで代用できる。ただし、熱湯には注意が必要だ。

2.断熱シート 窓に貼ったりカーペットの下に敷いたりするだけで、約2度変わる。これは包装材のプチプチシートで代用が可能だ。ホームセンターや100円ショップで購入できる。

3.みんなで集まる これは特に学生に勧めたい方法だ。みんなで集まって鍋パーティーやコタツに一緒に入れば、心も体も温まり交流も深められるので、まさに一石二鳥である。時間がある学生ならではの方法だろう。

上記で紹介したのは例のごく一部であり、節電はこれからも継続的に行っていく必要がある。この機会に自分にあった節電方法を探してみてはいかがだろうか。

(学生記者 太田諭志・木村翔太・柳谷優衣)

青森中央短期大学

卒業へ向けて

食物栄養学科

12月2・3日開催の特別研究発表会では、36題の研究結果が発表され、活発な質疑応答が行われた。病態と食事の関連や県産品の活用、食育の他、昨年3月の震災を受けての、非常食や復興支援弁当という食物栄養学科らしいアプローチを行った研究も見られた。学生は自らの問題意識を基に課題を設定し、1年かけて調査・研究を行った。得られた結果をこれまでに学んだ知識・技術と関連付け、一つの知見を得る「特別研究」のプロセスを経験したのである。この経験が今後、それぞれの場で活かされることを期待したい。

(食物栄養学科
清澤朋子 専任講師)



東北の幸どっさり弁当

看護学科

10月26日、平成23年度看護研究Ⅱ発表会（ポスター・セッション）が開催された。発表演題数は33題（7領域）であった。看護学生や新人看護師など身近な存在についての研究や、災害時の看護者の役割・被災者の心のケアなど震災を経験することによって看護の必要性を強く感じ、どのように対応していくべきかを考察した研究があった。

それぞれのテーマに基づいた成果を、一同に発表することにより、たくさんの貴重な学びを得ることができた。（看護学科 玉熊 和子 准教授）



幼児保育学科

12月9・10日、平成23年度特別研究発表会を実施し、担当教員による指導のもと進められた研究発表54題が発表された。研究内容は、保育に関する各専門分野の視点から、保育のあり方や子どもの幸福追求などについて考察されていた。1年半の月日をかけて練り上げた研究成果に、発表ではいつも以上に学生の真剣な眼差しと態度が見受けられ、達成感を実感するものであった。

一つのことに向き合い、考え続け、やり遂げることは、必ず卒業後にも生きていくことと信じていたい。（幼児保育学科 時本英知 准教授）



専攻科福祉専攻

今年の特徴は、高齢者、障がい者の方々の日常の中に潜んでいる課題を取りあげたことである。何気なく生活している日常の中に、カラーユニバースデザインを活用した製品があり、それをあまり意識せずに使用している。誰もが生活しやすいように、生活環境が日々整えられている。社会福祉、介護の分野に置いても、更に生活しやすく、全ての人が幸せになれるよう、変化していることを忘れてはならない。これから、それぞれの道に分かれるが、日々研鑽する姿勢を持ち続けて欲しい。

（専攻科福祉専攻 片川ひろえ 専任講師）



幼児保育学科卒業記念公演—想いの実現、希望の光—

12月17日の41期生卒業記念公演では、260人を超える観客が涙を流す感動の舞台が実現した。本年度は照明も加わり、キャスト・造形・音楽ともにオリジナリティー溢れるバランスの取れた良い作品に仕上がった。時には逃げ出したくなる瞬間を各自が乗り越え、「自分達なりの作品を創り上げたい、観客に感動を与えるパフォーマンスを目指したい」という想いが、輝かしい結晶となって私達の心を鷲掴みにした。学生達がみせてくれた純粋で力強いエネルギーに、これから社会へと巣立っていく若者の堅実な一歩を感じ、我々も心を熱くした。

(幼児保育学科 前田美樹 准教授)



第1期生の会

10月1日、青森グランドホテルにて『青森中央短期大学 第1期生の会』が開催された。昨年度の開学40周年記念誌の座談会上での『来年はみんな還暦だから一緒にお祝いしましょう』という呼びかけに同窓会が協力したもので、1期生36名のうち15名が集まり、久しぶりの再会の歓声が響いた。

1期生を代表し、田名辺洋子さんが「在学中は先生方からたくさんのことを学び、友人との思い出がたくさんあります。」と話され、当時のアルバムを見ながら「なつかしいね」「また会おうね」と、笑顔で再会を約束していた。



国際協力機構研修員の受け入れ

青森中央短期大学は11月10～22日まで、国際協力機構東北支部の平成23年度青年研修事業母子保健実施管理コースに協力し、4カ国より16名の研修員を受け入れた。研修には青森県、青森市、市内の医療機関、看護協会及び弘前大学の協力を得た。

研修員は日本の医療施設の充実、医療従事者のレベルの高さに感心していた。帰国後は研修成果を基に、医師、看護師、助産師のレベル向上に努め、母子手帳や保健師制度の導入などを考えており、地域の母子保健活動に貢献したいと述べていた。(看護学科 三田禮造 学科長)



東日本大震災と保育士

3月11日、あの未曾有の東日本大震災の中、保育士として必死の覚悟で子ども達を避難させた幼児保育学科卒業生がいました。その人が勤務する保育所は山側にあり、毎月避難訓練を実施していたのですが、津波を想定した訓練ではありませんでした。突然の迫り来る津波を目にした瞬間、「死ぬかもしれない」という恐怖の中、ひたすら子ども達を抱え逃れ、助かることができました。時々津波に襲われる夢で目が醒め、眠れぬことがあるそうですが、今は「助かった命」に感謝し、亡くなられた方々の分までしっかり生きていかなければならないという彼女の強い意志と、子どもの命を守りぬいた行動に頭の下がる思いでいっぱいです。

また、関係機関から各県の保育士の冷静な判断と臨機応変な対応が多くの子どもの命を救ったことを聞き、改めて保育士という仕事の役割と責任の重要性を痛感しました。

(幼児保育学科 大沢陽子 学科長)

先生の自分史「ふるさと」

幼児保育学科 **清多 英羽**先生

幼少時より転居多数につき、私には“ふるさと”がありません。わずかでも住まった方々で、郷土愛に溢れる人々と触れ合う機会には、その“熱気”に戸惑ったものです。念うに、“ふるさと”を持たざるが故に、私にはパトス的な何か^{おも}が足りないように憶います。いわゆる、郷土愛、愛国心等は、私にとって異文化です。

先日、或る学生から「先生は仙台訛りですね」と指摘されました。仙台訛り？私か？と、目を白黒させましたが、特に嬉しくもなく、かといって嫌悪感に狂うわけでもなく、結局のところ、その示唆は私にとってどうでもいい類の話のようです。ただ、研究室の西側の窓から岩木山を臨むまでの間に広がるベトナムのような田園地帯が、初夏の夕陽に照らされ、空を渡る風に愛でられ、キラキラと輝きを放つ様は、これ、まさに、“ふるさと”ではないかと思わせます。



研究室を訪ねて

～久保薫研究室～

写真から伝わるように、皆、仲が良いです。久保研究室にはおもしろい人・ツボが浅い人・可愛い人・天然の人と様々なキャラクターが揃っており、研究室からはいつも笑いが絶えません。

ですが、久保研究室の魅力はこれだけではありません。時には静かに火花を散らしながら真剣に話し合います。久保先生は、良いアドバイスと高級なお菓子で私達のやる気を引き出してくれます。浅利先生は、私達の研究にとことん付き合ってくれます。久保研究室では、先生の熱心なご指導のもと、研究に没頭することが出来ます。

(食物栄養学科 高橋あみ・鳥谷部香織)



読んで欲しいこの1冊

専攻科福祉専攻 **中村 純子**先生『氷点』
三浦 綾子 著 (朝日新聞社, 1965)

この小説は新聞に連載された他、何度か映像化されたように思う。高校生の頃に初めて読んだ時は、今流行の韓国ドラマの様なおちなのだと思っていた。しかし、何年かに一度、またページをめくると、その感動が新たになる。

この小説のテーマは「原罪」である。それは人間の始祖アダムとイブが最初に犯した罪で、その結果としてその子孫である全人類に生まれながら背負わされた罪であると説明されている。人間の心の中に大小を問わず罪があると主人公は言い、それを氷点と例えた。完全なる人間は存在しないし、原点を辿ると何かしらの罪を持っているのは当然かもしれない。その罪を攻めるだけではなく、許すことが必要であると思うし、とても難しいことでもあると思う。自分の心の醜さを眼前にさらされたように思い、自分自身の変革を促す本であったように思う。

卒業生も活躍しています

看護学科3期生 **中村 友梨香**さん
青森県立中央病院勤務

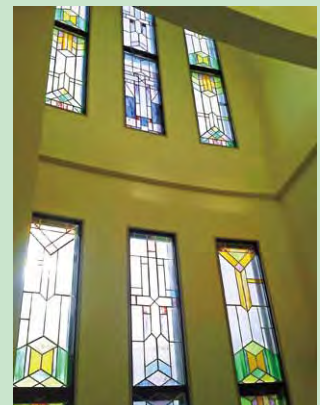
就職して半年経ちますが、毎日多くの発見があり、学びがあると実感しています。半年間の中で印象に残っている出来事があります。受け持った患者さんが不安そうな表情をしていたので、治療前に声をかけ、少しでも安心できるように励ましました。すると治療後に「あなたの笑顔を見て安心した」と笑顔になったのです。とても嬉しく思うと同時に、患者さんの心に寄り添うことの大切さを感じました。

看護師として学ぶべきことはまだ数多くありますが、日々患者さんとの関わりの中で成長させて頂いていることに感謝し、「あなたに会えて良かった」と言ってもらえるような、信頼される看護師になりたいと思います。



キャンパス再発見～ステンドグラス～ Vol.2 1人暮らしのレシピ Vol.2

今回紹介する場所は、学术交流会館のステンドグラスです。ここは寮生だけでなく短大生や学院大・専門学校の学生も授業で使用しているので、目にしたことのある人も多いのではないかと思います。このステンドグラスは外からも見ることができ、この空間だけキャンパス内とは少し違う雰囲気があります。色使いや上下左右のバランスなど見ていると時間を忘れそうになります。建物に入ってすぐ見ることもできますが、2階からの方がステンドグラスなど全体を見下ろすことができます。人通りも2階の方が少ないので、誰にも邪魔されず見とれることができます。ステンドグラスを一人占めにした気分になれますよ。時間を見つけてゆっくり眺めてうっとりするのもいいと思います。



(学生記者 野宮健太)

季節はもう冬、寒い時期におすすめするレシピとして、今回は「カボチャのひき肉あんかけ」を紹介します。

①カボチャ70gの種とワタを取り除き、一口大に切る。ねぎの青い部分はせん切りする。②カボチャをさっと水に通し耐熱皿に並べてラップをし、電子レンジ（600W）で4分加熱する。③あん作り：ポウルにひき肉25gとしょうゆ3g、みりん8g、酒8g、水12g、しょうがのすりおろし2g、ゴマ油2g、片栗粉3gを入れて混ぜ、ラップをせずに電子レンジで2分30秒加熱し、取り出して混ぜ合わせた後、さらに50秒加熱する。④作ったあんを②のカボチャにかけ、せん切りしておいたねぎを盛りつけて完成。

カボチャもあんも電子レンジで作るので簡単です。また、一人暮らしで最も高い光熱費のガス代もかかりません。みなさん、ぜひ作ってみて下さい。



(学生記者 高谷いずみ)

謎に包まれる寮生の生活 Vol.2 考シリーズ～エコボトル考～ Vol.2

皆さんはキャンパス内にある濃いピンク色が特徴的な建物をご存知ですか。今回ご紹介する「学术交流会館」です。ここでは、学院大、短大、専門学校の学生が男女共に生活しています。部屋にはユニットバスやキッチンが設備されています。ルームシェア可能な2人部屋もあり、仲の良い友達と生活ができます。また食事の希望者は、一階カフェテリアで朝食と夕食を食べる事ができます。

この寮は留学生も多く生活していて、身近なところで国際交流が可能です。快適な寮生活の中で、様々な文化に触れて視野を広げられるのはまさに一石二鳥です。また、ベランダから見る星空は絶品だとか。寮生だけが知る星空、皆さん気になりませんか？

この一階カフェテリアは誰でも利用できるのですが、ぜひ行ってみましょう。



(学生記者 栗谷絵梨)

寒さが厳しい季節になってきましたね。

そこで今回は、学生達のエコボトルの中身について調べました。寒さ到来で暖かい飲み物を持って来ている学生も多いのではないのでしょうか？40名に聞いてみました。結果は、冷たいお茶が21人、温かいお茶が8人、その他（ジュース2人・清涼飲料水4人・紅茶2人）が計8人でした。また、エコボトルは持たずに購入などで買う人が3人いました。この結果から寒くなってきても冷たいお茶を好む人が多いということが分かりました。まだまだ若い証拠ですね。しかしあまり冷たい飲み物を飲むと身体を冷やしてしまい身体に悪いです。身体が冷えると女性の場合、肌荒れや生理痛、生理不順、めまい、頭痛、身体のだるさ、不眠などが起こります。上記の症状に覚えがある人は、時には温かいものを飲んでみるのもいいかもしれませんね。



(学生記者 田中千香子)

附属第一・第二・第三幼稚園 / 中央文化・浦町保育園

世界一大きな絵 2012

11月25日、学術交流会館において「世界一大きな絵2012 in 青森」が開催されました。第一幼稚園“FRIENDLY（なかよし）”、第二幼稚園“LOVE(だいすき)”、第三幼稚園“AOMORI♡TOHOKU（わたしのまち）”、中央文化保育園“HOPE（きぼう）”、浦町保育園は“PEACE（へいわ）”ということばから、それぞれ連想した絵を描きました。この絵は、国や人種を越えて世界の子どもたちが描いた絵とつながって一枚の大きな絵となり、ロンドンオリンピックにて披露される予定です。

— みんなの思いが1つになりました —



熱気あふれる会場で



はいポーズ！



いっしょけんめいかいてるね

さあ、かくぞ！

インタビューもされちゃった！



キャンパスイルミネーション点灯式



ハンドベルの音色に大人のサンタさん登場！かわいいサンタさん達に大喜びです。



サンタさんからのプレゼント、ありがたう。寒かったけど嬉しいよ。

5・4・3・2・1
イルミネーション点灯！
きれいだね。



先生達活躍しています 第5回

「子どもがくれる力」

附属第二幼稚園 **小野寺 美咲**先生



“幼稚園の先生になる”という夢が叶って、子ども達に囲まれる日々も6年目になりました。今まで沢山の子ども達と出会い一緒に過ごしてきた、楽しい反面、保育に悩む事も多くありました。でもそんな時、子ども達の笑顔やギュッと抱きついてきた時の暖かさ、「みさ先生」と呼んでくれる声、降園時にいつまでも手を振る姿、プレゼントしてくれた絵など一つ一つの事が力となっています。又、卒園していった子が変わらぬ笑顔で「先生！」と会いに来てくれたり、「あの時楽しかったね」と話してくれると、子ども達の思い出の中に残っている私を受け止めることができ嬉しくなります。

これからも、子ども達との心の触れ合いを基盤にしなが、信念である“楽しく・笑顔あふれる保育”を目指します。

「子どもたちと一日一日を大切に」

浦町保育園 **阿部 裕貴**先生



浦町保育園で年長組を担当しています。母が保育士でずっと背中を見てきたので、憧れの保育士として現場に立てた時は感激でした。毎日子ども達の成長を見て、やりがいを感じています。子ども達が保育園生活でいろいろなことを経験していけるよう、先輩方にアドバイスを頂き助けてもらいながら日々頑張っています。

年長組は数ヶ月で卒園。子ども達と過ごす時間も限られているので、その残り少ない時間の中で、一つでも多く子ども達の成長を感じていきたいです。子どもたちが、「楽しい」「またやりたい」と思い、毎日保育園に来ることが楽しみになるような保育を考えています。そして、卒園しても子ども達の記憶に残るような先生になり、いろいろな場面で必要とされ、活躍していけるよう頑張っていきたいです。

読み聞かせたい一冊の絵本

附属第一幼稚園 **中山 憲子**先生『くれよんのくろくん』
なかや みわ さく・え (童心社,2001)

クレヨン達は、真っ白な画用紙を見つけて大喜び！チョウ、お花、木など次々と描いていきます。1ページごとに色が増え「次は何色かな？」と子ども達も興味津々！ところがくろくんだけは仲間に入れてもらえません。でも、シャーペンくんの登場でくろくんの存在が一気に際立ちます。くろくんが画用紙いっぱい塗った黒色は…あっ！と驚く色鮮やかな花火に。そして必要じゃない色なんてない！と気づき仲直りします。クレヨン達の気持ち、友情がにじみ出ていて、クレヨンがもっと大切に思えます。読み終



えた後は絵が描きたくなり、自分もこんなにきれいに描けるかもしれないとワクワクしてきます。

卒園児頑張っています

附属第三幼稚園卒園 **川越 悠暉**さん



原別小学校6年、川越悠暉です。

ぼくは今、「水球」を頑張っています。今年8月、大阪で行われた全国大会では、あと一歩のところまでベスト8進出を逃し、とても悔しい思いをしました。春の全国大会では、必ずベスト8以上の成績を残せるように、毎日練習を頑張っています。

思えば、ぼくが水球を始めたきっかけは、幼稚園の水遊び保育でした。ぼくは、水が苦手だったのですが、毎週、大学のプールに行ってみると遊んだり泳いだりする水遊び保育がとても楽しくて泳ぐことが好きになり、スイミングスクールに通うようになりました。そして「水球」というスポーツに出会ったのです。そのおかげで、今は全国各地に試合や遠征で行き、いろいろなことを経験しています。在園児の皆さんも夢中になれるものを見つけて、目標に向かって頑張ってください。

青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校

Bunka Fashion Live 2011

12月17日、アウガにて『Bunka Fashion Live 2011』を開催した。今年度は「Another World」と題し、宇宙・惑星・未来的な仮想空間を表現した作品と、修了作品や学園祭作品といった現実世界の作品、さらに青森県海外技術研修員の福田実生恵クリスラさん、留学生のブイ・ティ・ビッチ・ゴックさん（ベトナム）の作品を発表した。青森中央経理専門学校の学生を始め、青森中央学院大学、青森中央短期大学の学生・留学生の皆さんやスクールガールズモデルの皆さんの協力で無事成功し、更なる意欲と自信へ繋げることが出来た。



青森中央文化専門学校研修旅行

青森中央文化専門学校では11月2日～4日までの日程で研修旅行を実施し、東京の文化服装学院、日暮里繊維街、台東デザイナーズビレッジを訪れた。

学生達は連鎖校である文化服装学院のファッションショーを見学(写真)し視野を拓け、物作りへの意欲を新たにしました。

12月17日に開催された『Bunka Fashion Live 2011』では、この研修旅行で得た知識や体験を結実させ、一人ひとりが力を合わせ、創造性溢れるショーとなった。



学生パソコン教室～ワードで年賀状作成～

11月5日、青森中央経理専門学校にて学生主催のパソコン教室を開催した。一般の方々を対象とした無料パソコン教室は、学生が地域住民の方々と触れ合いながら地域貢献の大切さと、各自が役割を持つことで、組織の中で考え、自ら行動することを目指して毎年開催している。参加者の方々からは、「親切に教えていただきながら、楽しく作成できた。来年も参加したい。」と感想を頂き、学生達は自分の成長に繋がる時間を過ごした。



青森県海外技術研修員

今年度青森県海外技術研修員として、ブラジルから訪れた日系三世の福田実生恵クリスラさんは、現在青森中央文化専門学校にて服飾デザインを学んでいる。『Bunka Fashion Live 2011』では、和服をイメージしたデザインドレスと子供服を制作発表した。

福田さんはブラジル国サンパウロ州生まれ、大学卒業後はコリンスブランド会社へファッションデザイナーとして入社。苦手な日本語も青森中央学院大学での日本語の授業で学んだ。子供服のブランドを立ち上げる為、日々テクニックの修得に励んでいる。



経理発信情報 Vol. 3～医療事務コース～

看護学科連携授業&職場実習

青森中央経理専門学校では、授業で学んだ専門知識をより深めるため、10月から青森中央短期大学看護学科との連携授業を実施している。加えて職場実習を行い、専門職として必要な知識、技術、コミュニケーション能力の育成にも力を入れている。

11月には、医療秘書検定、医事コンピュータ検定、電子カルテ検定の3つの検定を受験し、医療事務職への道を目指して頑張った。11月から12月にかけては職場実習を行ない(写真)、職員の方々から実践的なアドバイスを受けた。



おすすめ図書 vol.3

青森中央経理専門学校 塚本 大広先生
『カラーひよことコーヒー豆』
 小川洋子著 (小学館,2009)

日常生活を過ごしていると、嬉しいことや楽しいことばかりではなく、悲しいことや辛いことも起きる。悲しいことや辛いことは出来れば起こってほしくないし、むしろ逃げたいものであるが、それに出合ってしまう、気持ちが落ち込んでしまった時にこの本を読むと、悲しいことや辛いことに出会ったことがむしろ良かったと思ってしまうほど気持ちを前向きにさせてくれる一冊である。

私のみならず、みなさんにもこれから歩む道のりには、幾度となく悲しいことや辛いことに会おうと思うが、その出会いは自分自身を一步、また一步と成長するための出会いなんだとこの本から感じてもらえるのではないだろうか。

最後にこの本の帯に書かれていた言葉で締めたいと思う。「ダイジョウブ！」。

ファッション通信 vol.3

【2012 春夏 レトロワンピース】

柄、素材、シルエットによって雰囲気が変わるワンピース。女性なら1着は持っておきたい人気のアイテム。今季は春夏らしく爽やかで軽やかなパステルカラーにドットが入ったフィット&フレアワンピースでレトロ感を演出。大きめのドットで明るくポップな印象を与えながら上品なシルエットで子供っぽくなりすぎないデザインがポイント。ワンピースやベストのカラーを変えることで、また一味違うオシャレを楽しめるため、シーンに応じたその時々コーディネートが可能だ。



(デザイン画 青森中央文化専門学校2年 荒内 真美)

卒業生ピックアップ No.16

青森中央経理専門学校 平成22年度卒業
 三和会歯科クリニック 工藤 綾乃さん

私は現在、青森市三内にある「三和会歯科クリニック」で医療事務員として働いています。入社当初は毎日が勉強の日々でした。現在では仕事にも慣れ、患者さんとのコミュニケーションも取れるようになりましたが、まだまだ分からないことが多く、先輩達のように歯科知識を身に付けられるよう勉強しています。学生時代にビジネスマナーやパソコンの知識を学んだことも職場では活かされています。

もし歯科の医療事務を希望している人がいたら、最初は大変でも、知れば知るほど楽しいのが魅力だと私は思いますので、ぜひチャレンジして下さい。



インフォメーション

学習支援センターより

上級学校への進学支援

近年、大学卒業後大学院へ、また短大卒業後四年制大学への編入学や専攻科への進学を希望する学生が増えている。センターでは、卒業後上級学校へ進学を希望する学生に対し進学支援を行っているので、気軽に利用してほしい。

進学支援一例

- ・進学先の募集案内・過去問題等の資料閲覧
- ・進学説明会・相談の実施
- ・小論文講座
- ・個別相談 他

また今年度より、青森中央短期大学卒業後、短大時代の専攻を活かし、上級学校への進学を希望する学生に対し、奨学金を支給する。この制度では、短大卒業後、専攻科への進学や四年制大学へ編入学する学生に対し、入学金の半額を限度に奨学金を給付（返済不要）する。

詳しくは学習支援センターまで問合せいただきたい。

アカデミック・ライティング

学習支援センターでは、レポートの書き方がわからない、論文・作文が苦手だ、進学・就職活動のために添削を希望するという学生のために定期的にアカデミック・ライティング講座を実施している。講座の内容は、実践記事を活用した表現の練習、原稿用紙を利用した実践向け練習、就職に役立つ基礎漢字の反復練習、漢字の書き取り、読み方、同音類義語、反対語、四字熟語等の練習の理解などである。

また、進路希望別により進学試験・就職試験・公務員試験・教員採用試験等対策の個別指導も行っているため、ぜひ利用してほしい。

講座はベテランの担当者が指導に当たり、今年度は国公立大学への編入学試験で多数の合格者を出すなど実績も上げている。

平成23年度編入学合格実績

・弘前大学 ・青森県立保健大学 ・岩手大学 ・秋田大学

緊急時連絡システムの導入

学校法人青森田中学園では、地震やその他の災害時に学生・教職員・保護者への連絡手段を確保するため、「非常時連絡ポータルサイト」と「緊急連絡メール配信システム」を導入した。非常の時には、このポータルサイトと緊急連絡メールによって、情報を発信する体制が整ったことになる。

■非常時連絡ポータルサイト

<http://aomori-tanaka.info/>

■緊急連絡メール配信アドレス

aomori_tanaka@once.88island.jp（返信不可・送信専用）

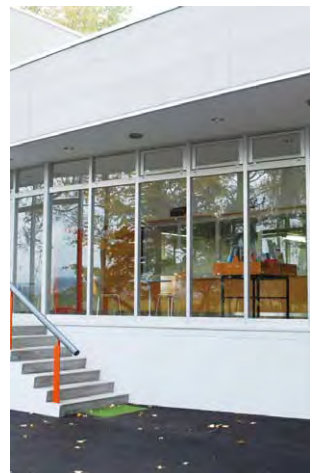


※ポータルサイト
QRコード

非常時ポータルサイトには、災害発生時に学生・教職員の安否を確認するフォームも設けられ、被災の状況把握に役立てられる予定である。本学園の学生・教職員および保護者の方は、上記のポータルサイトに一度アクセスして、お気に入りなどに登録するとともに、上記アドレスからのメールを確実に受信できるように、受信許可設定を行ってほしい。

事務局窓口リニューアル

今春から開始した事務局増設工事が10月24日に完了した。前回の事務局と大きく異なるのは、単一の窓口から、各部署別に複数の窓口を設けたことである。この窓口の増設により、学生サービスの向上、そして事務局の業務効率化を図っていく。また、事務局前には開放感あるフロアと景色が広がっており、リラックスできる空間の整備に努めていきたい。



公開講座案内

青森中央学院大学サテライトキャンパス FRIENDLY WINDOW

青森市新町2丁目7-13(新町通り柳町交差点)

オープン時間 10:00~18:00

●2月のイベントご案内

日程	内容
2月16日(木)~2月28日(火)	国際交流ウィーク
2月21日(火)	フレンドリー・ウィンドウ手芸講座
2月25日(土)	ソーシャルビジネスによる地域活性化ワークショップ
2月27日(月)	発展途上国の貧困削減の物語 (青森中央学院大学地域マネジメント研究所研究員 グエン・チ・ギア)

●3月のイベントご案内

日程	内容
3月上旬	青森中央文化専門学校学生がコーディネートする ファッションショップ

青森中央学院大学・青森中央学院大学大学院

●あおもり観光人財育成講座

会場:青森中央学院大学サテライトキャンパスFRIENDLY WINDOW

日程	時間	テーマ	講師
2月2日(木)	13:00~15:00	交通と観光	青森中央学院大学専任講師 森田 学
	15:00~17:00	観光と温泉	城西国際大学客員教授 山村 順次 氏
2月16日(木)	13:00~15:00	震災復興と観光	青森中央学院大学教授 内山 清
	15:00~17:00	発表会	受講生

●ソーシャル・ビジネス 公開講座(仮)

日程	時間	テーマ	講師
3月12日(木)	15:00~17:00(予定)	ソーシャル・ビジネスによる震災復興	ノーベル平和賞受賞者 ムハマド・ユヌス氏

附属第一幼稚園・附属第二幼稚園・附属第三幼稚園 中央文化保育園 浦町保育園

●平成24年度 入園願書受付中

青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校

●オープンキャンパス

会場:学術交流会館 時間:13:00~16:00

日程	内容	対象
3月14日(水)	青森中央経理専門学校 「カンタン仕事体験 営業事務(ビジネスマナー・名刺作成)」 青森中央文化専門学校 「ファッション紹介NAVI」	高校生・保護者

●青森県専門学校フェア

会場:ねぶたの家ワ・ラッセ

日程	内容	対象
3月26日(月)	職業体験	中学生・高校生・保護者



「こぶしの花」掲載写真募集！

こぶしの花編集委員会では、「こぶしの花」（表紙）に掲載することを目的に、写真作品を募集しています。現在、5月発行予定の84号表紙掲載写真を募集中です。学園内の風景を題材に、皆さんの力作をお待ちしています。

■84号応募締め切り：3月20日

■応募先メールアドレス：kobushiphoto@aomoricgu.ac.jp

※応募の際、メールの表題には「こぶしの花写真応募」、メール本文には「学部学科・学籍番号・氏名・（電話番号）」を記入してください。

※本応募は、投稿の資格は青森田中学園在学生在が撮影した未発表作品に限ります。

※本応募に関するご質問等は、こぶしの花編集委員会までお問合せ下さい。

お問合せ先：kobushiphoto@aomoricgu.ac.jp



携帯から応募の際は
コチラをご利用下さい

青森田中学園報「こぶしの花」第83号

発行日：2012. 2. 1

発行：学校法人 青森田中学園

〒030-0132 青森市横内字神田12

TEL：017-728-0131

FAX：017-738-8333

<http://www.aomoricgu.ac.jp>

<http://www.chutan.ac.jp>

「こぶしの花」編集委員

編集長

中村 實枝子

佐藤 紋子

赤坂 敦子

高橋 晴美

加藤 澄

牧野 晴子

坪谷 輝子

八木橋ひろみ

中田 尋美

学生記者

太田 諭志

柳谷 優衣

栗谷 絵梨

木村 翔太

高谷いずみ

野宮 健太

佐藤 祐貴

田中千香子